

# 新発田税務署長賞

## 税を知る

新発田市立 第一中学校 二年 小野寺 萌 彩 さん

日本は救急車を無料で呼ぶことのできる、世界の中でも数少ない国だということを知ったことがある。他国では、救急車の手配に数万円ほどかかるのが一般的だそうだ。しかし日本では、その費用を税金で賄っている。このように、国民の健康や安全、そして義務教育など、身近なことの多くが税金によって支えられている。税金は、私たちの生活に欠かせないものなのだ。

私は、家族との会話やニュースから、『増税』という言葉を知ることがある。増税される理由とともに、増税反対の声も多く聞こえた。なぜ、反対の声があるのだろうか。

令和元年十月、消費税の標準税率が、八パーセントから十パーセントに引き上げられた。そのとき、反対派の意見も多くあったそうだ。その理由として、負担が大きくなることや、収入によって不公平になること、税金の使い道に納得できない、などがあった。この消費税増税は、社会保障の財源確保のため、そして日本政府の借金返済費用確保などのために行われた。日本は社会保障の財源を多くの借金に頼っており、このままでは私達が大人になったとき、借金の額は増え、返済が難しくなってしまう。それに加え少子高齢化社会である日本は、社会保障費も年々増加している。高齢者の介護や福祉のための費用、そして、子育て世代への支援も今以上に必要になってくるだろう。政府の借金を返済していき、将来的な負担を少しでも減らすためにも、『増税』は必要不可欠な選択だったのではないかな。

しかし、増税に反対する気持ちにも共感できる。苦勞して働いて稼いだお金の多くを税金として納めなければいけない上に、どこに使われるか把握できていなければ、増税に反対するのは当然だと思う。そこで、今だけを見すぎるのではなく、将来を見据えた考え方をすることが大切だと思う。今自分が納める税金が、数十年後の自分の健康や生活を支えることになるかもしれない。負担が少なくなるかもしれない。そう考えれば少しは、肯定的に受け止められるのではないかな。

私は税金を納めることによって、便利だと実感する機会があまりないことや、使い道を詳しく知らないことが、人々の税金に対する不満につながっていると思う。私自身も、この作文を書くにあたり税への知識の無さを知った。だから私は、子供のときから税について知っておくことが大切だと思う。学校では教科書が無償で提供され、エアコンのある涼しい教室で快適な学校生活が送れる。そのような、当たり前からこそ、税金に支えられているということに、なかなか気づくことができないのではないかな。税について知ることは、身の回りのものを今よりもさらに大切にすることや、税を納めることに対しての不満の解消につながると思う。私はこれから、暮らしを支える税について考え、正しい知識を身に付けていきたい。